

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム

令和4年度改訂版（素案）

## 目次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| <b>第1章 歯科医師に求められる資質・能力</b> ..... | 5  |
| 1. プロフェッショナリズム.....              | 6  |
| 2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢.....          | 6  |
| 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢.....            | 6  |
| 4. 科学的探究.....                    | 7  |
| 5. 専門知識に基づいた問題解決能力.....          | 7  |
| 6. 情報・科学技術を活かす能力.....            | 7  |
| 7. 患者ケアのための診療技能.....             | 8  |
| 8. コミュニケーション能力.....              | 8  |
| 9. 多職種連携能力.....                  | 8  |
| 10. 社会における医療の役割の理解.....          | 9  |
| 資質・能力と学修目標の関連.....               | 10 |
| <b>第2章 学修目標</b> .....            | 12 |
| <b>A 生命科学</b> .....              | 13 |
| A-1 生命の分子基盤.....                 | 13 |
| A-2 人体各器官の発生、成長、老化と死.....        | 14 |
| A-3 人体各器官の正常構造と機能.....           | 15 |
| A-4 感染と免疫.....                   | 17 |
| A-5 病因と病態.....                   | 18 |
| A-6 生体と薬物.....                   | 19 |
| <b>B 歯科理工学</b> .....             | 21 |
| B-1 材料の基本物性.....                 | 21 |
| B-2 歯科用材料.....                   | 21 |
| B-3 歯科用機器.....                   | 21 |
| <b>C 社会と歯学</b> .....             | 22 |
| C-1 医の倫理、生命倫理と患者中心の歯科医療.....     | 22 |
| C-2 医学知識と問題対応能力.....             | 23 |
| C-3 医療の質と患者安全の確保.....            | 23 |

|          |                         |           |
|----------|-------------------------|-----------|
| C-4      | 健康と社会、環境                | 24        |
| C-5      | 予防と健康管理                 | 25        |
| C-6      | 疫学及び保健医療統計              | 25        |
| C-7      | 国際的素養の獲得と国際医療への貢献       | 26        |
| <b>D</b> | <b>臨床歯学（知識）</b>         | <b>27</b> |
| D-1      | 診療の基本                   | 27        |
| D-2      | 基本的診察、診断技能              | 28        |
| D-3      | 頭頸部領域の正常と異常             | 30        |
| D-4      | 診療記録の整理と治療計画立案          | 35        |
| D-5      | 基本的臨床技能（各論）             | 36        |
| D-6      | 多職種連携、チーム医療、地域医療        | 40        |
| <b>E</b> | <b>臨床歯学（診察・診断と治療技能）</b> | <b>42</b> |
| E-1      | 診療の基本                   | 42        |
| E-2      | 基本的診察・診断技能              | 43        |
| E-3      | 症候・病態からの臨床推論            | 45        |
| E-4      | 診療記録の整理と治療計画立案          | 47        |
| E-5      | 基本的臨床技能（各論）             | 48        |
| E-6      | 多職種連携、チーム医療、地域医療        | 51        |

## 表記について

- 「大項目」、「中項目」、「小項目」をABC、123、1)2)3)、(1)(2)(3)という順で付番を統一した。ただし、学修目標は全て①②③と付番をした。
- 学修目標の文末「説明できる」は、「概説できる」よりも深く理解し言説できる能力を示す。
- 歯学用語は、日本歯科医学会学術用語集 第2版（日本歯科医学会 編）に準拠した。
- 「学習」と「学修」の表記については、大学設置基準上、大学での学びは「学修」としていることから、原則として「学修」を用いることとした。ただし、大学での学びに限られない場合は、「学習」を用いることとした（「生涯学習」など）。
- 前掲の単語の同義語、説明、具体例等を追加するときには（ ）を使用した。  
例) 科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）
- 日本語とそれに対応する英単語を併記する場合は略語を（ ）で示す。  
例) 主観的所見、客観的所見、評価、計画(SOAP)
- 人名は原語表記を原則とした。
- カタカナ化した英語はとくに英語表記を示していない。  
例) コミュニケーション
- 団体・組織名については、法人格の表記を省略した。

## 第 1 章 歯科医師に求められる資質・能力

歯科医師は、医療人としての高い倫理感をもって、患者の安全を何よりもまず優先した上で質の高い歯科医療を提供するとともに、医学に新たな知見を積み重ねることができるよう、以下の資質・能力の向上のため、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

本稿では、医療人として生涯にわたって修得・研鑽すべき共通の10の資質・能力を中項目に示し、卒業時までには修得すべき到達目標を小項目として示した。

## 1. プロフェッショナルリズム

人々の命と健康を守るために、人間の多様性に配慮し、人間性を尊重しつつ、歯科医師の職責を十分に自覚し、利他的な態度で医療に関わりながら、歯科医師としての道を究めていく。

- 1) 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動できる。
- 2) 患者、生活者の心理的、社会的要因や社会背景に配慮し、尊厳を尊重し、利他的、誠実、正直に行動できる。
- 3) 社会規範はもとより、歯科医師法および関連法規、歯科医師に求められる規範・倫理を遵守できる。
- 4) 自己の知識、技術、態度を恒常的に評価し、自己主導型学習を行い、自己評価能力を高めながら、常に自己の向上を図ることができる。
- 5) 医療従事者としてセルフマネジメント能力（レジリエンス、ストレスマネジメント）を養うことができる。
- 6) 同級生や後輩、同僚、チーム構成員に対して助言、指導ができる。

## 2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢

個人と社会のウェルビーイングを実現するために、患者、生活者の心理及び社会文化的背景や家族、地域社会との関係性を踏まえ、説明責任を果たしつつ、総合的に患者、生活者を支える歯科医療を提供していく。

- 1) 歯科医師としての説明責任を果たし、インフォームド・コンセントを適切に得るために必要な能力を身に付ける。
- 2) かかりつけ歯科医の職責を自覚し、プライマリケアを提供できる。
- 3) 他職種や他業種との多職種連携を実践できる。

## 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

より安全で質の高い歯科医療を実践するために、絶えず省察し、生涯にわたって自律的に学びながら他の歯科医師、医療者と研鑽し続けるとともに、積極的に医療者教育に関わっていく。

- 1) 生涯学修に向けて自らの将来を構想し、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。
- 2) 医療の質について、常に振り返り、その改善に努めることができる。

- 3) 医療の評価・検証とそれに基づく自らの行動を論理的、批判的に振り返り、生涯に向けた自己研鑽に取り組むことができる。
- 4) 生涯を通じて新しい知識や技術を学び続けることができる。

#### 4. 科学的探究

社会に適応する医学を創造していくために、医学・医療の発展のための歯学研究の重要性を理解し、科学的・批判的思考を身に付けながら学術・研究活動に関与していく。

- 1) 自らの行動を論理的、批判的に振り返り、生涯に向けた自己研鑽に取り組むことができる。
- 2) 研究の基礎となる科学的理論や方法論を身に付ける。
- 3) 未知・未解決の臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる。
- 4) 新しい情報を生み出すための意欲、基礎的素養と研究上の倫理観を身に付ける。
- 5) 国内外の論文や書籍、検索情報等の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察や吟味によって有用な情報を選別できる。
- 6) 科学的考察に基づいて、研究発表を行うことができる。

#### 5. 専門知識に基づいた問題解決能力

患者・家族の抱える問題に対応するために、患者、家族に共感し、医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら問題解決に努めていく。

- 1) 生命の分子基盤、人体の正常な構造と機能を説明できる。
- 2) 人体各器官の発生、成長、老化と死を説明できる。
- 3) 人間の心理、行動を説明できる。
- 4) 疫学と予防を説明できる。
- 5) 病因と病態、生体の構造と機能の異常を説明できる。
- 6) 診断と治療を説明できる。
- 7) 歯科医療における材料と機器の性質と使用法を説明できる。
- 8) 診療の基本、口腔・顎・顔面領域の常態と疾患を説明できる。
- 9) 医療安全と感染対策を説明できる。
- 10) 保健、医療、福祉、介護に関する制度を説明できる。
- 11) 医療経済、医療政策、保険診療を説明できる。
- 12) 歯科医学の基盤となる自然科学、人文社会学を応用できる。

#### 6. 情報・科学技術を活かす能力

医療・医学研究をさらに発展させるために、発達し続ける情報社会を理解し、人工知能（AI）やビッグデータ活用を含めた高度科学技術を活用していく。

- 1) 情報倫理（AI 倫理を含む）及びデータ保護に関する原則を説明できる。
- 2) 健康・医療・介護に関わる情報倫理を説明できる。

- 3) 個人の情報コントロールABILITYに基づいた、保健・医療・介護分野での Internet of Things (IoT) 技術や AI、ビッグデータの活用を説明できる。
- 4) 数理・データサイエンス、AI 等の基本的情報知識と実践的活用スキルを身に付ける。
- 5) データサイエンス、AI を駆使したイノベーションの創出に関心を示す。
- 6) 歯科医療において Digital Dentistry の活用を説明できる。

## 7. 患者ケアのための診療技能

安全で質の高い歯科医療を提供するために、臨床技能を磨き、それを遺憾無く発揮し、患者の苦痛や不安に配慮した診療を実践していく。

- 1) 患者中心の医療を理解し、医療面接を適切に実施できる。
- 2) 口腔、顎顔面領域にとどまらず、基本的な身体診察を行うことができる。
- 3) 臨床推論により、必要な検査を選択し、疾患を診断ができる。
- 4) 高頻度の疾患に対して一口腔単位の治療計画を立案できる。
- 5) 高齢者、有病者、障害者等の配慮が必要な患者に対応できる。
- 6) 医療安全と感染対策を実践できる。
- 7) 病状説明、患者教育を実施できる。
- 8) 医療情報の特性を理解し、適切に記録、管理できる。
- 9) 心肺蘇生等の救命救急処置を身に付ける。

## 8. コミュニケーション能力

患者の意思決定を支援して、安全で質の高い歯科医療を実践するために、患者及び患者に関わる全ての人の状況を考慮した上で良好なコミュニケーションをとり、信頼関係を構築していく。

- 1) 患者、患者家族等の多様性を理解し、適切な人間関係を構築し、適切な歯科医療を行うために十分なコミュニケーションスキルを養うことができる。
- 2) 医療チームの構成員と信頼関係を築き、安全で円滑な医療を行うためにコミュニケーションを図ることができる。
- 3) 患者を取り巻く保健・医療・福祉・介護における多職種とコミュニケーションを図ることができる。

## 9. 多職種連携能力

患者中心の歯科医療を提供するために、保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、チームとして連携していく。

- 1) 医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明できる。
- 2) 保健・医療・福祉・介護における歯科医師の役割を説明できる。
- 3) 患者を取り巻く保健・医療・福祉・介護における多職種とそれぞれの役割を踏まえて連携できる。
- 4) 多職種連携の中でリーダーシップを発揮するための能力を身に付ける。

## 10. 社会における医療の役割の理解

健康の代弁者として公衆衛生の向上を図るために、医療は社会の一部であるという自覚を持ち、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野も持ちながら、公正な歯科医療を提供していく。

- 1) 公衆衛生を説明できる。
- 2) 予防と健康増進を説明できる。
- 3) 保健医療、社会福祉と社会環境を説明できる。
- 4) 社会・地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。
- 5) 地域医療において、各種制度に基づく歯科医師の果たす役割を自覚し、行動できる。
- 6) 災害時における歯科医師の役割を説明できる。
- 7) 国際社会における多様性を理解し、地域医療でも活躍できる。

○ 資質・能力と学修目標の関連

| 資質・能力      |                          | 1. プロフェッショナルリズム | 2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢 | 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 | 4. 科学的探究 | 5. 専門知識に基づいた問題解決能力 | 6. 情報・科学技術を活かす能力 | 7. 患者ケアのための診療技能 | 8. コミュニケーション能力 | 9. 多職種連携能力 | 10. 社会における医療の役割の理解 |
|------------|--------------------------|-----------------|--------------------|------------------|----------|--------------------|------------------|-----------------|----------------|------------|--------------------|
| A<br>生命科学  | A-1<br>生命の分子基盤           |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | A-2<br>人体各器官の発生、成長、老化と死  |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | A-3<br>人体各器官の正常構造と機能     |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | A-4<br>感染と免疫             |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                | ○               |                |            | ○                  |
|            | A-5<br>病因と病態             |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                | ○               |                |            |                    |
|            | A-6<br>生体と薬物             |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                | ○               |                |            |                    |
| B<br>歯科理工学 | B-1<br>口腔組織、材料の基本物性      |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | B-2<br>歯科用材料             |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | B-3<br>歯科用機器             |                 |                    | ○                | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
| C<br>社会と歯学 | C-1<br>医の倫理、生命倫理と患者中心の医療 | ◎               | ◎                  |                  |          | ○                  |                  | ○               | ○              | ○          | ○                  |
|            | C-2<br>医学的知識と問題対応能力      |                 |                    | ◎                | ○        | ○                  |                  |                 |                |            |                    |
|            | C-3<br>医療の質と患者安全の確保      |                 |                    |                  |          |                    |                  | ◎               |                |            |                    |
|            | C-4<br>健康と社会、環境          | ○               |                    |                  |          | ◎                  |                  | ○               | ○              | ○          | ◎                  |
|            | C-5<br>予防と健康             |                 | ○                  |                  |          |                    |                  |                 |                |            | ○                  |
|            | C-6<br>疫学および保健統計         |                 |                    |                  | ◎        | ◎                  | ◎                |                 |                |            |                    |
|            | C-7<br>国際素養の獲得と国際医療への貢献  |                 |                    |                  |          |                    |                  |                 |                |            | ○                  |

|               |                         |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D<br>臨床歯学(知識) | D-1<br>診療の基本            |   |   | ○ |   | ◎ |   |   |   |   |   |
|               | D-2<br>基本的診察・診断技能       | ○ |   |   |   |   |   |   | ○ |   | ○ |
|               | D-3<br>頭頸部領域の正常と異常      |   | ○ |   |   | ○ |   |   | ○ | ○ |   |
|               | D-4<br>診療記録の整理と治療計画立案   | ○ | ○ |   |   |   |   |   | ○ |   |   |
|               | D-5<br>基本的臨床技能(各論)      |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |   |
|               | D-6<br>多職種連携、チーム医療、地域医療 |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ |
| E<br>臨床歯学(技能) | E-1<br>診療の基本            |   |   | ○ | ○ | ◎ |   |   |   |   |   |
|               | E-2<br>基本的診察・診断技能       | ◎ |   | ◎ |   |   |   | ◎ |   |   | ◎ |
|               | E-3<br>症候・病態からの臨床推論     |   | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |   | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
|               | E-4<br>診療記録の整理と治療計画立案   | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |   | ◎ | ○ | ◎ |   |   |
|               | E-5<br>基本的臨床技能(各論)      |   | ◎ | ◎ |   | ◎ |   | ◎ | ◎ |   |   |
|               | E-6<br>多職種連携、チーム医療、地域医療 | ◎ | ◎ | ◎ |   |   |   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

◎：資質・能力の獲得に強く関連する学修項目

○：資質・能力の獲得に関連する学修項目

## 第 2 章 学修目標

## A 生命科学

生命現象の基本的知識ならびに病因や病態解析に必要な知識を修得し、医療の提供や発展に必要な考え方を身に付ける。

### A-1 生命の分子基盤

分子、細胞、組織及び個体レベルでの生命現象の原理を理解する。

#### A-1-1) 生体を構成する物質の化学的基礎

生命科学及び医療科学を学ぶ上で必要な物質の化学的基礎を理解する。

学修目標：

- ① 原子と生体を構成する元素を説明できる。
- ② 分子の成り立ちと生体構成分子に関する化学的性質を説明できる。
- ③ 物質間及び物質とエネルギーの相互作用を説明できる。

#### A-1-2) 生体を構成する物質の構造、機能及び代謝

基本的な生体物質の分子構造、機能及び代謝（正常と異常）を理解する。

学修目標：

- ① アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。
- ② 糖質の構造、機能及び代謝を説明できる。
- ③ 脂質の構造、機能及び代謝を説明できる。
- ④ 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。
- ⑤ 酵素の機能と調節、主な代謝異常を説明できる。
- ⑥ ビタミン、ミネラルの種類と作用を説明できる。
- ⑦ 酸化ストレス（フリーラジカル、活性酸素）の発生と作用を説明できる。
- ⑧ 栄養素の相互変換とエネルギー代謝（エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量）を説明できる。
- ⑨ 空腹時、飢餓時、食後、過食時及び運動時における代謝を説明できる。

#### A-1-3) ゲノム、染色体、遺伝子

遺伝子からタンパク質合成への流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用、ヒトゲノムの解析を理解する。ゲノム、染色体、遺伝子の多様性と疾患との関連を理解する。

学修目標：

- ① メンデルの法則や遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
- ② 核酸、遺伝子及び染色体の構造と機能を説明できる。
- ③ デオキシリボ核酸(DNA)複製と修復、DNAからリボ核酸(RNA)への転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節を説明できる。
- ④ 遺伝性疾患の発生機序を説明できる。
- ⑤ 遺伝子解析や遺伝子工学技術を説明できる。

- ⑥ 染色体分析と DNA 配列決定を含むゲノム解析技術を概説できる。
- ⑦ 薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。

#### A-1-4) 細胞の構造と機能

細胞の基本構造と機能及び増殖と分化機構を理解する。

学修目標：

- ① 真核細胞の全体像と細胞膜、核、細胞小器官及び細胞骨格の構造と機能を説明できる。
- ② 細胞内外間の物質の移動のしくみを説明できる。
- ③ 細胞内外液のイオン組成と浸透圧、静止膜電位を説明できる。
- ④ 細胞周期、細胞分裂及び主な細胞分化のしくみを説明できる。
- ⑤ 細胞死の種類と基本的機序を説明できる。

#### A-1-5) 細胞の情報伝達機構

細胞間、細胞と細胞外マトリックスの接着機序及び細胞レベルでの情報伝達の仕組みを理解する。

学修目標：

- ① 細胞接着の機構を説明できる。
- ② 受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間及び細胞内の情報伝達機構を説明できる。
- ③ 主な細胞外マトリックス分子の種類、構造及び機能を説明できる。
- ④ 主な細胞外マトリックス分子の合成と分解を説明できる。

### A-2 人体各器官の発生、成長、老化と死

人体各器官の発生、成長、老化と死に関する生命現象の基本を理解する。

#### A-2-1) 個体の発生

個体と器官の発生過程を理解する。

学修目標：

- ① 出生までにみられる胚形成の全体像を概説できる。
- ② 鰓弓、鰓嚢の分化と頭頸部の形成過程を説明できる。
- ③ 体幹、四肢の骨格と筋の形成過程を概説できる。
- ④ 消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系、循環器系及び神経系の各器官の形成過程を概説できる。
- ⑤ 多能性幹細胞と基本的な発生学的技術を概説できる。
- ⑥ 個体の発生段階と先天異常について説明できる。
- ⑦ 全身の形成異常の発生機構を概説できる。
- ⑧ 頭頸部の形成異常の発生機構を説明できる。

## A-2-2) 個体の成長発育

個体と器官の成長過程を理解する。

学修目標：

- ① 人体の形態的な成長と機能的な発達を説明できる。
- ② 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。

## A-2-3) 個体の老化と死

個体と器官の成熟期以降の加齢変化（老化と死）を理解する。

学修目標：

- ① 人体の老化の特性と機序及び寿命を概説できる。
- ② 老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的、機能的な変化を概説できる。
- ③ 老化に伴う精神的、心理的变化を説明できる。
- ④ 個体の死の病因と病態を概説できる。

## A-3 人体各器官の正常構造と機能

人体各器官の正常構造と機能に関する基礎的知識を身に付ける。

### A-3-1) 身体を構成する組織と器官

人体各器官の正常構造及び生理的機能とその機序を理解する。

学修目標：

#### A-3-1)-(1) 上皮組織と皮膚・粘膜系

- ① 上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。
- ② 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。
- ③ 腺の構造、分布及び分泌機構を説明できる。

#### A-3-1)-(2) 支持組織と骨格系

- ① 人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。
- ② 結合（支持）組織の分類、構成する細胞と細胞間質を説明できる。
- ③ 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を説明できる。
- ④ 骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）、骨成長及びリモデリングの機序と調節機構を説明できる。
- ⑤ 硬組織の成分と石灰化の機序を説明できる。

#### A-3-1)-(3) 筋組織と筋系

- ① 筋組織の分類と分布を説明できる。

- ② 筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。
- ③ 全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。

#### A-3-1)-(4) 血液・リンパと循環器系

- ① 心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。
- ② 血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。
- ③ 血管の構造と血圧調節機能を説明できる。
- ④ 血液の構成要素と役割を説明できる。
- ⑤ リンパ管とリンパ系組織、器官の構造と機能を説明できる。
- ⑥ 造血器官と造血機構を説明できる。
- ⑦ 止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。

#### A-3-1)-(5) 神経系

- ① 末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。
- ② 体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。
- ③ 交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。
- ④ 脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能、自律機能）及び脳血管の分布を説明できる。
- ⑤ 反射、半自動運動及び随意運動の発現と調節の機序を説明できる。
- ⑥ ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。
- ⑦ 神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。
- ⑧ シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。

#### A-3-1)-(6) 感覚器系と感覚

- ① 特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。
- ② 体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。
- ③ 内臓感覚を概説できる。
- ④ 疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。

#### A-3-1)-(7) 消化器系

- ① 消化管の構造、機能及び調節機構を概説できる。
- ② 肝臓、胆嚢及び膵臓の構造と機能を説明できる。

#### A-3-1)-(8) 呼吸器系

- ① 気道系の構造と機能を説明できる。
- ② 肺の構造、機能及び呼吸運動を説明できる。

#### A-3-1)-(9) 内分泌系とホメオスタシス

- ① 内分泌器官の構造と機能を説明できる。
- ② ホルモンの種類、作用及び異常を説明できる。
- ③ 恒常性維持と内分泌系、神経系の機能相関を説明できる。
- ④ 体温調節の機序を説明できる。
- ⑤ 摂食調節の機序を説明できる。

#### A-3-1)-(10) 泌尿器系と体液・電解質調節

- ① 腎・尿路系の構造と機能を説明できる。
- ② 体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。
- ③ 代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。

#### A-3-1)-(11) 生殖器系

- ① 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。

### A-4 感染と免疫

微生物の感染機構と宿主の生体防御機構について理解する。

#### A-4-1) 微生物と感染

微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。

学修目標：

- ① 細菌、ウイルス、真菌及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。
- ② 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。
- ③ 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。
- ④ 新興・再興感染症を説明できる。
- ⑤ 常在微生物叢の性状とヒトに対する感染機構を説明できる。
- ⑥ 感染症における化学療法の目的と原理、化学療法薬の作用機序を説明できる。
- ⑦ 細菌の薬剤耐性機序を説明できる。
- ⑧ 滅菌と消毒の意義、方法及び原理を説明できる。
- ⑨ 院内感染でみられる感染機構及び問題となる微生物を説明できる。

#### A-4-2) 免疫

生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、腫瘍免疫、アレルギー、免疫不全症・自己免疫疾患を理解する。

学修目標：

- ① 自然免疫を担当する細胞の種類と機能を説明できる。
- ② 獲得免疫を担当する細胞の種類と機能を説明できる。

- ③ 抗原提示機能を説明できる。
- ④ 粘膜免疫を説明できる。
- ⑤ 免疫寛容と移植免疫を説明できる。
- ⑥ アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症の種類、発症機序及び病態を説明できる。
- ⑦ ワクチンの意義と種類、特徴、接種法及び副反応を説明できる。

## A-5 病因と病態

疾患における形態的、機能的変化を学び、それらの病因及び病態を理解する。

### A-5-1) 病因論と先天異常

病因論と先天異常を理解する。

学修目標：

- ① 染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。
- ② 環境と疾患の関係を説明できる。

### A-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮

細胞傷害、組織傷害及び萎縮の原因と形態的所見を理解する。

学修目標：

- ① 細胞傷害と組織傷害を説明できる。
- ② 変性と関連疾患の病態を説明できる。
- ③ 疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。
- ④ 萎縮と仮性肥大を説明できる。
- ⑤ 代謝障害と関連疾患の病態を説明できる。

### A-5-3) 修復と再生

修復と再生の意義とこれらの形態的所見を理解する。

学修目標：

- ① 修復と再生の機序と幹細胞の役割を説明できる。
- ② 肥大と過形成を説明できる。
- ③ 化生を説明できる。
- ④ 創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。
- ⑤ 器質化を説明できる。

### A-5-4) 循環障害

循環障害の成因、形態及びその転帰を理解する。

学修目標：

- ① 虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。
- ② 出血の原因、種類及び転帰を説明できる。
- ③ 血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。
- ④ 梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。
- ⑤ 浮腫の原因と転帰を説明できる。
- ⑥ ショックの成因と種類を説明できる。

#### A-5-5) 炎症

炎症の概念、発症機序及び形態的特徴を理解する。

学修目標：

- ① 炎症の定義と機序を説明できる。
- ② 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
- ③ 滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。
- ④ 肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。
- ⑤ 炎症の全身反応を説明できる。

#### A-5-6) 腫瘍

腫瘍の病因と病態を理解する。

学修目標：

- ① 腫瘍の定義、病因及び発生機序を説明できる。
- ② 腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。
- ③ 細胞異型と構造異型、腫瘍の組織学的分化度及び用語（前癌病変、上皮内癌、早期癌等）を説明できる。
- ④ 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。
- ⑤ 腫瘍の組織学的分類と特徴を説明できる。
- ⑥ 上皮性異形成を説明できる。

#### A-6 生体と薬物

生体と薬物の相互作用について、個体、細胞、分子のレベルで理解し、有害事象に配慮した安全で的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を身に付ける。

##### A-6-1) 薬物と医薬品

医薬品の基本的事項（分類、開発と評価）を理解する。

学修目標：

- ① 医薬品の分類（毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬、毒物、劇物を含む）を説明できる。
- ② 医薬品の開発プロセスと、臨床試験における医薬品の評価を説明できる。

#### A-6-2) 薬理作用の基本

薬物（和漢薬を含む）の作用に関する基本的事項を理解する。

学修目標：

- ① 薬物療法の種類や薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
- ② 薬物作用とその作用機序を説明できる。
- ③ 薬理作用を規定する要因を説明できる。
- ④ 薬物の用量反応曲線を描き、有効量、中毒量及び致死量の関係と治療係数を説明できる。
- ⑤ 薬力学的相互作用（協力作用、拮抗作用、作動薬、拮抗薬）について説明できる。

#### A-6-3) 薬物の投与方法と体内動態

投与された薬物の生体内運命を理解する。

学修目標：

- ① 薬物の投与方法の種類と特徴を説明できる。
- ② 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）について説明できる。
- ③ 年齢、妊娠、病態、併用薬物、遺伝的素因が影響する薬物動態の特徴を説明できる。

#### A-6-4) 薬物の副作用と有害事象を考慮した薬物治療の基本原則

薬物（和漢薬を含む）の副作用・有害事象の種類及び連用と併用の影響を考慮した薬物治療の基本的事項を理解する。

学修目標：

- ① 薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。
- ② 薬物の口腔及び顎顔面領域における副作用と有害事象を説明できる。
- ③ 薬物の連用の影響（耐性、蓄積及び薬物依存）を説明できる。
- ④ 薬物動態学的相互作用を説明できる。
- ⑤ 主な薬物について、薬物動態の特徴や有害事象を考慮して投与時の注意事項を説明できる。
- ⑥ 薬剤耐性(AMR)に配慮した適切な抗菌薬使用を説明できる。

## B 歯科理工学

歯科用材料と歯科用機器に必要な知識を修得し、医療の提供や発展に必要な考え方を身に付ける。

### B-1 材料の基本物性

材料の物理的（光学的、機械的性質を含む）、化学的、生物学的性質（生体活性、安全性）について理解する。

学修目標：

- ① 材料（生体組織を含む）の物理的（光学的、機械的性質を含む）性質を説明できる。
- ② 材料の化学的性質を説明できる。
- ③ 材料の生物学的性質（生体活性、安全性）を説明できる。

### B-2 歯科用材料

歯科医療や歯科技工に用いられる歯科用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法について理解する。

学修目標：

- ① 成形修復・歯冠修復用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。
- ② 義歯用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。
- ③ 接着用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。
- ④ 歯科矯正用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。
- ⑤ 歯内療法用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。
- ⑥ 口腔インプラント、口腔外科、歯周治療用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。

### B-3 歯科用機器

歯科医療や歯科技工に用いられる成形、加工技術ならびに歯科用機器の構成、原理、特性及び使用方法について理解する。

学修目標：

- ① 歯科用材料の成形、加工（切削、焼結、重合、鋳造、溶着等）の原理を説明できる。
- ② 歯科用機器の種類、構成、原理、特性及び使用方法を説明できる。
- ③ 歯科用検査装置の種類、構成、原理、特性及び使用方法を説明できる。
- ④ 成形・加工用機器（デジタル成形加工を含む）の種類、構成、原理、特性及び使用方法を説明できる。

## C 社会と歯学

適正な歯科医療を提供するために、歯科医師に求められる倫理的、法的、社会的知識と態度を身に付ける。

### C-1 医の倫理、生命倫理と患者中心の歯科医療

患者中心の歯科医療を提供するために、プロフェッショナリズムを身に付ける。

#### C-1-1) 医の倫理と患者中心の視点

患者の主体的治療参加を促すために、患者の安全を最優先して常に患者中心の立場に立つとともに、遵守すべき生命科学・医学系研究における倫理に関する知識と態度を身に付ける。

学修目標：

- ① 医の倫理と生命倫理、患者の権利に関する規範、国際規範の歴史的経緯と諸問題を概説できる。
- ② 臨床（生と死に関わる問題を含む）に関する倫理的問題を説明できる。
- ③ 患者の自己決定権と患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。
- ④ インフォームド・コンセントの意義、重要性及び必要な説明事項を説明できる。
- ⑤ 医学研究に関する倫理的問題を説明できる。
- ⑥ 研究を医学、医療の発展や患者の利益の増進を目的として行うよう配慮できる。

#### C-1-2) 歯科医師としての責務と裁量権

豊かな人間性と生命の尊厳についての深い自覚を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。

学修目標：

- ① 歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。
- ② コンプライアンスを遵守する。
- ③ 患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。
- ④ 医療サービスの特殊性（情報の非対称性、医療の不確実性）や治療の限界を説明できる。
- ⑤ 歯科医師に課せられた法的責任と社会的責任（刑事責任、民事責任、歯科医師法と健康保険法に基づく行政処分）を説明できる。

#### C-1-3) チーム医療

患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を身に付ける。

学修目標：

- ① 患者中心のチーム医療の意義を説明できる。
- ② 医療チームや各構成員（歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師その他の医療職）の役割分担と連携、責任体制を説明できる。
- ③ 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。
- ④ 医療や介護をはじめとする他職種、他業種や他の医療機関との連携を行うための手続きとコミュニケーション（適切な略語等を含む）を説明できる。
- ⑤ 患者情報の守秘と患者等への情報提供の重要性と説明責任を説明できる。

- ⑥ 人生の最終段階における歯科の関わり（看取り、グリーフケアを含む）と本人の意思決定、意思表示を説明できる。

## C-2 医学知識と問題対応能力

発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、疫学と根拠に基づいた医療（EBM）を基盤に、広い症候、病態、疾患に対応する。

学修目標：

- ① 講義、国内外の教科書や文献、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出、統合し、客観的、批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- ② 科学的情報を入手し選別するために必要な英語力を身につけることができる。
- ③ 必要な課題を自ら発見し、重要性や必要性に照らして順位付けできる。
- ④ 課題の解決にあたり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出し、自ら課題を解決できる。
- ⑤ 自己学修や協同学修の場に適切な Information and Communication Technology（ICT）（e-ラーニング、モバイル技術）を活用できる。
- ⑥ 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。
- ⑦ 各自の興味に応じて科学的研究に積極的に参加できる。

## C-3 医療の質と患者安全の確保

患者の安全を最優先に確保した上で、良質な歯科医療を提供するために必要な知識を身に付ける。

### C-3-1) 安全な医療の確保

信頼される安全で安心な歯科医療を提供するために、医療上の事故等（インシデントや医療関連感染を含む）は日常的に起こる可能性があることを自覚した上で、患者の安全確保を最優先するために必要な知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 医療上の事故等の発生要因（ヒューマンエラー、システムエラー等）と防止策を説明できる。
- ② 医療現場における報告、連絡、相談及び診療録記載の重要性を説明できる。
- ③ 医療の安全性に関する情報の共有、分析の重要性を説明できる。
- ④ 医療機関に求められる医療安全管理体制を概説できる。
- ⑤ 医療関連感染の原因と対策（標準予防策、感染経路別予防策を含む）を概説できる。

### C-3-2) 医療上の事故等への対処と予防

医療事故が発生した場合の対処方法と予防策を身に付け、防止対策を立案できる。

学修目標：

- ① 医療事故（診療関連死を含む）と医療過誤の違いを説明できる。
- ② 医療法に基づく医療事故調査制度を説明できる。
- ③ 薬物による有害作用報告（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）の意義を説明できる。
- ④ 医療上の事故等が発生した際の緊急処置や記録事項、報告体制を説明できる。
- ⑤ 医療上の事故等の事例（薬害や注射器等の連続使用による B 型肝炎、ウイルス感染被害等を含む）の原因を分析し、防止対策を立案できる。

- ⑥ 健康被害救済制度（医薬品副作用被害救済制度等）を説明できる。

#### C-3-3) 医療従事者等の健康と安全の確保

医療従事者が遭遇する医療上の事故等について、基本的な予防、対処及び改善の方法を身に付ける。

学修目標：

- ① 医療従事者の健康管理（予防接種、被曝線量管理を含む）の重要性を説明できる。
- ② 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
- ③ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に則った廃棄物処理を説明できる。
- ④ 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

#### C-4 健康と社会、環境

将来にわたり質の高い医療を継続して提供するために、その実践に必要な幅広い知識を身につけ、変化に対応する能力を涵養する。

##### C-4-1) 健康の概念と死の定義

歯科医学及び歯科医療によって健康に寄与するために、健康と疾病の概念と死の定義を理解する。

学修目標：

- ① 健康、障害、疾病と死の概念を説明できる。
- ② 口腔と全身の健康との関連を説明できる。

##### C-4-2) 歯科医師法及び医療関連法規

法令を遵守して歯科医療を実践するために、歯科医師法及び医療関連法規の規定を理解する。

学修目標：

- ① 歯科医師法、医療法をはじめとする歯科医業に関する法規を説明できる。
- ② 歯科医師の業務及び義務を説明できる。
- ③ 歯科衛生士法、歯科技工士法及び歯科口腔保健の推進に関する法律を説明できる。
- ④ 薬事衛生法規（日本薬局方、医薬品・医療機器等の取り扱いを含む）を概説できる。
- ⑤ 保健衛生法規を概説できる。
- ⑥ 予防衛生法規を概説できる。
- ⑦ 医師法、薬剤師法、保健師助産師看護師法及びその他の歯科医療関係職種の関係法を概説できる。

##### C-4-3) 保健・医療・福祉・介護の制度

限られた医療資源の有効活用の視点を踏まえ、適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、関連する社会制度、地域医療及び社会環境を理解する。

学修目標：

- ① 地域及び各ライフステージの保健医療施策の背景と概要を説明できる。
- ② 社会保障制度（社会保険の各制度、社会福祉、公的扶助、公衆衛生）を説明できる。

- ③ 社会保障費と医療経済（国民医療費、医療費負担と給付）を説明できる。
- ④ 小児や高齢者、障害者等の置かれた社会環境とその考え方（ユニバーサルデザイン、バリアフリー、生活の質(QOL)）を説明できる。
- ⑤ 虐待の防止に関する制度と歯科医師の責務を説明できる。
- ⑥ 地域包括ケアシステムをはじめとする、地域における保健・医療・福祉・介護の連携を説明できる。
- ⑦ 地域における災害医療、在宅医療及びへき地医療の体制を説明できる。
- ⑧ 災害時の歯科医療の必要性を説明できる。

#### C-4-4) 法歯学

歯科的立場において社会での治安維持に貢献するために、法歯学に基づく方法を理解する。

学修目標：

- ① 事件、事故及び災害時の犠牲者に対する法歯学的検査の手順、方法及びこれに関連する法規を説明できる。
- ② 歯科領域に関連する損傷の検査及び鑑定について説明できる。
- ③ 法医解剖（司法解剖、行政解剖、死因身元調査法による解剖、承諾解剖）を説明できる。

#### C-4-5) 環境と健康

人間の健康と環境との関係を探求し、両者にとってよりよい世界を構築するために、疾病予防や健康の保持増進に寄与する環境条件を見出すことの重要性を理解する。

学修目標：

- ① 人間と環境との相互関係と環境の重要性を説明できる。
- ② 環境汚染の評価と対策を説明できる。
- ③ 公害による健康被害と対策を説明できる。
- ④ 地球規模で発生している環境破壊や気候変動の現状を理解し、その国際的な取り組みを説明できる。

#### C-5 予防と健康管理

疾病の予防と健康管理を通じて公衆衛生の向上に努め、健康な生活を確保する。

学修目標：

- ① 疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。
- ② プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。
- ③ プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
- ④ 感染性疾患と非感染性疾患の予防を説明できる。
- ⑤ 公衆歯科衛生を概説できる。
- ⑥ 行動科学と健康教育を概説できる。

#### C-6 疫学及び保健医療統計

疫学や統計を用いて、適切な医療、保健サービスを提供するために必要な能力を身に付ける。

##### C-6-1) 歯科疾患の疫学

疫学と根拠に基づいた医療(EBM)を実践するために、その概念と応用法を理解する。

学修目標：

- ① 疫学と根拠に基づいた医療 (EBM) の概念及び診療ガイドラインを説明できる。
- ② スクリーニング検査を説明できる。
- ③ 歯科疾患の疫学的指標を説明できる。

#### C-6-2) 保健統計

統計学の有用性と限界を理解し、保健・医療の問題点を把握するために、保健医療統計とその応用を理解する。

学修目標：

- ① 確率変数とその分布、統計的推測（推定と検定）の原理と方法を説明できる。
- ② 主な保健医療統計（歯科疾患実態調査、国民健康・栄養調査、国勢調査、人口動態調査、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師統計、学校保健統計調査等）を説明できる。
- ③ 主な健康指標（平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等）を説明できる。
- ④ 調査方法と統計的分析法を説明できる。

#### C-6-3) 保健医療情報リテラシー

医療の質の向上を目的として、Internet of Things (IoT) や人工知能 (AI)、ビッグデータといった数理・データサイエンスを活用し、保健医療情報を Information and Communication Technology (ICT) を用いて適切に利用、管理するために、その方法を理解する。

学修目標：

- ① ICT を安全に活用するための情報セキュリティやコンプライアンスを説明できる。
- ② 個人情報の保護に関する法律を遵守した保健医療情報（診療録、Personal Health Record 等を含む）の取扱いを説明できる。
- ③ 「人間中心のAI 社会原則」のAI-Ready な社会における、情報倫理 (AI 倫理を含む) 及びデータ保護に関する原則を説明できる。
- ④ IoT 技術や AI、ビッグデータ活用等の基本的な概念と手法、保健・医療・介護分野への応用例について説明できる。
- ⑤ 発達し続ける情報社会を理解し、自身の学びや医療に活用する柔軟性を有する。

#### C-7 国際的素養の獲得と国際医療への貢献

国際社会の一員として地域医療の多様性を把握し、国際医療に貢献するために、国際貢献や国際協力に求められる基本的な能力を身に付ける。

学修目標：

- ① 患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応することができる。
- ② 地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- ③ 日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解し、説明できる。
- ④ 世界の保健・医療問題を概説できる。
- ⑤ パンデミックにおける院内感染対策、国際的な感染症対策と日本の防疫対策を説明できる。

## D 臨床歯学（知識）

安全・安心な歯科医療を提供するために、頭頸部領域の構造と機能の正常と異常を理解し、日常の診察に必要な基本的知識及び臨床技能に関する知識を身に付ける。

### D-1 診療の基本

信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、必要な診療の基本的知識を身に付ける。

#### D-1-1) 医療安全・感染対策

患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供するための基本的な知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 医療安全対策（標準予防策(SP)、感染予防、医療機器の操作、放射線の誤曝等を含む）の方法を説明できる。
- ② 手洗いと滅菌手袋の装着方法を説明できる。
- ③ 適切な個人用防護具(PPE)を選択し着用する方法を説明できる。
- ④ 医療廃棄物の適切な分別と廃棄の方法を説明できる。
- ⑤ 針刺し切創対策の方法を説明できる。
- ⑥ インシデント報告書（放射線の誤曝を含む）の作成方法を説明できる。
- ⑦ 薬剤耐性(AMR)に配慮した適切な抗菌薬選択の重要性を説明できる。

#### D-1-2) 救急処置

救急処置の基本的な知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。
- ② 一次救命処置(BLS)を説明できる。
- ③ 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序と適応を説明できる。

#### D-1-3) 麻酔・除痛法

処置における除痛、鎮静法として局所麻酔法、精神鎮静法及び全身麻酔法の基本を理解する。

##### D-1-3)-(1) 局所麻酔法

学修目標：

- ① 局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。
- ② 局所麻酔薬の分類と、その作用機序を説明できる。
- ③ 局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。
- ④ 血管収縮薬の使用目的と種類、特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。
- ⑤ 局所麻酔の実施法と合併症（偶発症）を説明できる。

#### D-1-3)-(2)精神鎮静法

学修目標：

- ① 精神鎮静法の特徴と目的及び種類を説明できる。
- ② 吸入鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症（偶発症）を説明できる。
- ③ 静脈内鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症（偶発症）を説明できる。
- ④ 精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。

#### D-1-3)-(3)全身麻酔法

学修目標：

- ① 全身麻酔の概念、種類並びに麻酔時の生体反応を説明できる。
- ② 全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。
- ③ 全身麻酔の適応と禁忌、合併症（偶発症）及び周術期の管理を説明できる。

### D-2 基本的診察、診断技能

患者から症状や異常を聴取し、適切な診察や検査を選択して診断するプロセスと知識を身に付ける。

#### D-2-1)医療面接（病歴聴取と医療コミュニケーション）

良好な医師-患者関係を構築する重要性と医療面接に必要な基本的知識を身に付ける。

##### D-2-1)-(1)一般成人の医療面接

学修目標：

- ① コミュニケーションの意義、目的及び技法（言語的、準言語的、非言語的）を説明できる。
- ② 診療室における患者の心理と行動を説明できる。
- ③ 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴、職業歴等）を説明できる。
- ④ 順序立った面接、流れに沿った円滑な面接について概説できる。

##### D-2-1)-(2)小児やその他特別な配慮を要する患者の医療面接

学修目標：

- ① 診療室における小児患者の心理と行動を説明できる。

- ② 小児患者の医療面接に必要な質問事項を説明できる。
- ③ 患者の心理、社会的背景を踏まえながら患者及びその家族と良好な信頼関係を築く方法を説明できる。

#### D-2-2) 口腔、顎顔面領域の診察、検査

口腔、顎顔面領域の疾患の診断に必要な診察、検査の基本的な知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 診察、検査に必要な事項を列挙できる。
- ② 診察、検査に必要な器材を説明できる。
- ③ 現症の取り方（視診、触診、打診、温度診等）を説明できる。

#### D-2-3) 全身の診察と検査による全身状態の把握

全身状態を把握するために必要な臨床検査の基本的知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 臨床検査の目的と適応を説明できる。
- ② バイタルサインの意義とそのモニタリングの方法を説明できる。
- ③ 血圧、脈拍数、呼吸数、体温の測定方法と異常所見を説明できる。
- ④ 意識状態の確認方法と異常所見を説明できる。
- ⑤ 心電図検査及び動脈血酸素飽和度測定（パルスオキシメトリ）の目的と適応を列挙できる。
- ⑥ 臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。
- ⑦ 患者の服用薬物（和漢薬を含む）の歯科治療への影響と歯科治療時の対応を説明できる。
- ⑧ 患者（小児、妊産婦、高齢者を含む）の全身状態の評価を説明できる。

#### D-2-4) 医科歯科連携

医科歯科連携の必要性和歯科医師のかかわり方を理解し、診療情報提供書の作成法を理解する。

学修目標：

- ① 口腔と医科疾患との関連について説明することができる。
- ② 診療情報提供書の記載方法を説明できる。
- ③ 医科歯科連携の必要性和歯科医師の関わり方を説明できる。

#### D-2-5) 画像検査を用いた診断

放射線等を用いた診断の特徴と適応並びに画像の解釈を理解するとともに、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法を理解する。

学修目標：

- ① 放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。
- ② 放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。
- ③ 放射線防護の基準と方法を説明できる（医療放射線安全管理責任者の内容を含む）。

- ④ エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を説明できる。
- ⑤ エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。
- ⑥ 口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。
- ⑦ 口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像における正常像を解釈ができる。
- ⑧ 顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類と適応を説明できる。
- ⑨ 造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(CT)、歯科用コーンビーム CT(CBCT)、磁気共鳴撮像法(MRI)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。

#### D-2-6) 病理組織検査を用いた診断

病理組織検査（組織診、細胞診）の目的と適応を理解する。

学修目標：

- ① 病理組織検査の種類と適応を説明できる。
- ② 病理組織検査依頼書の作成法を説明できる。

#### D-2-7) 基本的診断(臨床推論)

症候・病態から疾患を導き出す思考過程を身に付ける。

学修目標：

- ① 診断の思考様式について説明できる。
- ② 症状や身体診察の結果を症候・病態として表現できる。
- ③ 症候や病態から想定すべき鑑別疾患名を説明できる。

### D-3 頭頸部領域の正常と異常

頭頸部領域の構造と機能の正常を理解し、疾患の示す症状や異常とその原因、診断法、治療法等を身に付ける。

#### D-3-1) 頭頸部の基本構造と機能

頭頸部の基本的な構造と機能を理解する。

学修目標：

- ① 頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。
- ② 頸部を構成する骨と関節を説明できる。
- ③ 頭頸部を構成する筋を説明できる。
- ④ 咀嚼、嚥下機能を担う筋の構造と機能、支配神経を説明できる。
- ⑤ 頭頸部の脈管系の走行と分布を説明できる。
- ⑥ 脳神経の走行と分布、核の局在、線維構成、神経節を説明できる。
- ⑦ 自律神経の走行と分布を説明できる。
- ⑧ 脳幹の機能を概説できる。

- ⑨ 顎関節の構造と機能を説明できる。
- ⑩ 下顎の随意運動と反射を説明できる。
- ⑪ 咀嚼、嚥下の意義と制御機構を説明できる。
- ⑫ 嘔吐反射と絞扼反射を説明できる。
- ⑬ 咽頭の基本構造、咽頭挙上筋と咽頭収縮筋及び支配神経について説明できる。
- ⑭ 喉頭の基本構造、喉頭内筋及び分布する神経について説明できる。
- ⑮ 咽頭、喉頭に分布する脈管系について説明できる。
- ⑯ 扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。

#### D-3-2) 口腔領域の構造と機能

口腔及び隣接領域の基本的な構造と機能を理解する。

学修目標：

- ① 口腔の区分と構成要素を説明できる。
- ② 口唇と口腔粘膜の分類と特徴を説明できる。
- ③ 舌の構造と機能を説明できる。
- ④ 軟口蓋の構造と機能を説明できる。
- ⑤ 歯列と咬合を説明できる。
- ⑥ 歯と歯周組織の構造を説明できる。
- ⑦ 歯の形態異常を説明できる。
- ⑧ 唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。
- ⑨ 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。
- ⑩ 副鼻腔の構造、機能及び鼻腔との交通を説明できる。
- ⑪ 口腔、顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。

#### D-3-3) 口腔、顎顔面領域の発生

口腔、顎顔面領域の発生過程を理解する。

学修目標：

- ① 口腔と顎顔面領域の発生を説明できる。
- ② 鰓弓由来の構造と器官を説明できる。
- ③ 顔面の発生に関与する突起と形成する部位を説明できる。
- ④ 甲状腺、舌、唾液腺の発生を説明できる。

#### D-3-4) 口腔、顎顔面領域の加齢変化

口腔、顎顔面領域の加齢変化（成長・発育と老化）とその異常について理解する。

学修目標：

- ① 口腔、顎顔面領域の成長と発育を説明できる。
- ② 口腔、顎顔面の成長と発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる。
- ③ 加齢、歯の喪失に伴う顎骨と顎関節の形態変化について説明できる。

- ④ 歯、歯周組織、咀嚼機能、嚥下機能の加齢変化について説明できる。

#### D-3-5) 口腔、顎顔面領域の疾患

口腔、顎顔面領域の疾患の特徴と病因及び診断と治療の基本的概念を理解する。

##### D-3-5)-(1) 先天異常と後天異常

学修目標：

- ① 口腔、顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。
- ② 口唇裂、口蓋裂の病態と治療方針及び治療法を説明できる。
- ③ 顎変形症の病態と治療方針及び治療法を説明できる。
- ④ 軟組織の異常を説明できる。

##### D-3-5)-(2) 外傷

学修目標：

- ① 外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。
- ② 外傷の治療方針を説明できる。
- ③ 歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ④ 顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ⑤ 軟組織損傷の分類、症状、診断法及び治療法を説明できる。

##### D-3-5)-(3) 炎症

学修目標：

- ① 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。
- ② 急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。
- ③ 炎症の診断に必要な検査法を説明できる。
- ④ 菌血症と歯性病巣感染の病態、症状、検査法及び治療法を説明できる。
- ⑤ 消炎療法の意義と特徴を説明できる。
- ⑥ 主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、骨壊死、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎）の症状と治療法を説明できる。
- ⑦ 口腔、顎顔面領域の肉芽腫性炎の種類と特徴を説明できる。

##### D-3-5)-(4) 口腔粘膜疾患

学修目標：

- ① 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
- ② 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の原因、症状と治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(5) 嚢胞

学修目標：

- ① 口腔、顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。
- ② 口腔、顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(6) 腫瘍と腫瘍類似疾患

学修目標：

- ① 口腔、顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。
- ② 口腔、顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ③ 口腔、顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ④ 腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。
- ⑤ 口腔潜在的悪性疾患の概念及び特徴を列挙できる。
- ⑥ 白板症、紅板症、扁平苔癬の特徴、症状及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(7) 顎関節疾患

学修目標：

- ① 顎関節疾患の分類と特徴を説明できる。
- ② 顎関節疾患の症状、診断法及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(8) 唾液腺疾患

学修目標：

- ① 唾液腺の発育異常を概説できる。
- ② 唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ③ 唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ④ 唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ⑤ 腫瘍類似疾患を概説できる。
- ⑥ ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。
- ⑦ シェーグレン症候群(SS)の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(9) 神経疾患

学修目標：

- ① 口腔顔面痛を説明できる。
- ② 神経障害性疼痛の原因、症状及び治療法を説明できる。
- ③ 顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。
- ④ 三叉神経麻痺（感覚麻痺、運動麻痺）の原因、症状及び治療法を説明できる。
- ⑤ 口腔領域の神経痙攣の原因、症状及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(10) 口腔、顎顔面領域に症状を現す疾患

学修目標：

- ① 口腔、顎顔面領域に症状を現す血液疾患（貧血、出血性素因、白血病）とスクリーニング検査法を説明できる。
- ② 口腔、顎顔面領域に症状を現す感染症の種類と症状を説明できる。
- ③ 口腔、顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫異常の症状を説明できる。
- ④ 口腔、顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患及びその症状を説明できる。
- ⑤ 口腔、顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を説明できる。
- ⑥ 口腔、顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断及び治療法を説明できる。
- ⑦ 口腔、顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を説明できる。
- ⑧ 口腔、顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状を説明できる。
- ⑨ 口腔、顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状を説明できる。
- ⑩ ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症と後天性免疫不全症候群 (AIDS) の口腔症状と検査法を説明できる。
- ⑪ 口腔、顎顔面領域の慢性の痛みの原因、症状及び治療法を説明できる。

#### D-3-5)-(11) 口腔、顎顔面領域の機能障害

学修目標：

- ① 咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ② 摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ③ 言語障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ④ 味覚障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ⑤ 口腔乾燥の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ⑥ 睡眠時無呼吸の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。

#### D-3-6) 歯と歯周組織の構造と機能

歯と歯周組織の構造と機能を理解する。

学修目標：

- ① 歯の発育及び交換の過程と変化を説明できる。
- ② 歯種別の形態と特徴を説明できる。
- ③ 遺伝的な歯の形成異常を説明できる。
- ④ 永久歯、乳歯、根未完成歯、幼若永久歯の硬組織の構成成分、構造及び機能を説明できる。
- ⑤ 歯髄の構造と機能を説明できる。
- ⑥ 歯周組織の構造と機能を説明できる。

#### D-3-7) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因

歯と歯周組織に生じる疾患の概要を理解する。

学修目標：

- ① 齲蝕とその他の歯の硬組織疾患（tooth wear（歯の損耗）、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症、歯の亀裂・破折、歯の形成不全、歯の形態異常）の病因と病態を説明できる。
- ② 歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ③ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ④ 口腔細菌、プラーク（口腔バイオフィルム）及び歯石を説明できる。
- ⑤ 歯痛の機序を説明できる。

#### D-4 診療記録の整理と治療計画立案

患者の診療記録を適切に取り扱い、患者の心理や健康増進に配慮した治療計画を立案するための知識を身に付ける。

##### D-4-1) 診療記録

診療録の標準的な記載方法及び処方箋、技工指示書の作成法を説明できる。

学修目標：

- ① 問題志向型診療記録(POMR)を説明できる。
- ② 処方箋の書き方を説明できる。
- ③ 技工指示書の書き方を説明できる。

##### D-4-2) 診断と治療計画

患者の歯科疾患及び医科疾患に加えて、社会的問題を考慮した治療計画立案の過程と知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 診断された歯科疾患及び医科的疾患の既往や全身状態、さらに心理的背景、社会経済的問題等を含む健康上の問題に関するプロブレムリストを作成できる。
- ② プロブレムリストから治療方針を決定できる。
- ③ 治療方針と治療の優先性及び患者の背景や希望を考慮して治療計画を立案できる。

##### D-4-3) 患者中心の医療とインフォームド・コンセント

患者中心の医療を理解し、患者の選択権を尊重する手法を身に付ける。

学修目標：

- ① 代表的な疾患における専門用語をインフォームド・コンセント及びインフォームド・アセントを用いる患者に分かりやすい用語で表記できる
- ② 医師と患者が合意すべき共通基盤を説明できる。
- ③ 医師と患者の関係を強化する方法を説明できる。
- ④ 患者中心の医療における Narrative-Based Medicine (NBM) の意義を説明できる

## D-5 基本的臨床技能（各論）

安全・安心な歯科医療を提供するために、各種歯科治療技能に関する知識を身に付ける。

### D-5-1) 共通事項

歯科診療を実施する環境整備に関する知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 術野の清潔域と不潔域を説明できる。
- ② 歯科用ユニットおよび周辺機器の基本的操作法を説明できる。

### D-5-2) 歯科保健指導

歯科疾患の予防と口腔衛生管理を理解する。

学修目標：

- ① 主な歯科疾患（齲蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。
- ② 齲蝕予防における予防填塞及びフッ化物の応用方法を説明できる
- ③ プラークコントロールの意義と方法を説明できる。
- ④ ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。
- ⑤ 歯科疾患のリスク因子を説明できる。
- ⑥ 口腔健康管理に用いる薬物を説明できる。

### D-5-3) 歯と歯周組織の疾患の治療

歯と歯周組織に生じる疾患の治療法を理解する。

#### D-5-3)-(1) 齲蝕とその他の歯の硬組織疾患の診断と治療

学修目標：

- ① 齲蝕とその他の歯の硬組織疾患（tooth wear（歯の損耗）、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症、歯の亀裂・破折、歯の形成不全、歯の形態異常）の症状、検査法、診断及び治療法を説明できる。
- ② Minimal Intervention（MI）に基づく歯科治療の意義と臨床的対応を説明できる。
- ③ 修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。
- ④ 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。
- ⑤ 歯髄保護の意義、種類及び方法を説明できる。
- ⑥ 窩洞形成の意義と方法を説明できる。
- ⑦ 仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。
- ⑧ 修復後の管理の目的と方法を説明できる。

#### D-5-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療

学修目標：

- ① 歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法を説明できる。
- ② 根管充填の目的と方法を説明できる。
- ③ 歯髄・根尖性歯周疾患の治療時における合併症（偶発症）について、種類、処置及び予防を説明できる。
- ④ 歯髄・根尖性歯周疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。
- ⑤ 外科的歯内療法（手術用実体顕微鏡の利用を含む）の種類と適応を説明できる。
- ⑥ 失活歯の変色の原因と処置を説明できる。
- ⑦ 歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を説明できる。
- ⑧ 失活歯の歯根破折の原因、症状、診断及び処置を説明できる。

#### D-5-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療

学修目標：

- ① 歯周疾患の症状と全身疾患との関連を説明できる。
- ② 歯周疾患の検査法、診断及び治療方針（メンテナンスを含む）を説明できる。
- ③ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。
- ④ 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
- ⑤ 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。

#### D-5-4) 歯質と歯の欠損の治療

歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部欠損に対する補綴治療の臨床的意義と治療手順を理解する。

##### D-5-4)-(1) 固定性補綴装置（クラウンブリッジ）による治療

学修目標：

- ① 固定性補綴装置の意義と具備条件を説明できる。
- ② 固定性補綴装置の種類、特徴及び製作法（CAD/CAMを含む）を説明できる。
- ③ 支台築造の意義、種類及び特徴を説明できる。
- ④ 支台歯形成の意義と方法を説明できる。
- ⑤ 固定性補綴装置製作のための印象採得（光学印象を含む）に用いる材料と方法を説明できる。
- ⑥ 固定性補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。
- ⑦ 固定性補綴装置の色調選択（シェードテイキング）を説明できる。
- ⑧ プロビジョナルレストレーションの意義とその製作法を説明できる。
- ⑨ 固定性補綴装置の製作に必要な材料の基本的操作（CAD/CAMを含む）を説明できる。
- ⑩ 研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。
- ⑪ 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。
- ⑫ 固定性補綴装置の装着に用いる材料と方法を説明できる。
- ⑬ 固定性補綴装置装着後のメンテナンスの意義と方法を説明できる。

##### D-5-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）による治療

学修目標：

- ① 無歯顎および歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。
- ② 可撤性義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。
- ③ 可撤性義歯の要素構成と設計原則（支持、維持、把持、咬合平衡を含む）を説明できる。
- ④ 可撤性義歯製作のための印象採得を説明できる。
- ⑤ 可撤性義歯製作のための咬合採得を説明できる。
- ⑥ 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。
- ⑦ 人工歯選択を説明できる。
- ⑧ 人工歯排列（咬合様式を含む）を説明できる。
- ⑨ 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。
- ⑩ ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。
- ⑪ 可撤性義歯装着後のメンテナンスの意義と方法、調整を説明できる。
- ⑫ 可撤性義歯のリラインと修理を説明できる。
- ⑬ 顎骨、顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。
- ⑭ 顎補綴の種類、特徴、目的及び意義を説明できる。

#### D-5-4)-(3) 口腔インプラントによる治療

学修目標：

- ① 口腔インプラントの種類、特徴、目的及び意義を説明できる。
- ② 口腔インプラントの適応症と合併症を説明できる。
- ③ 口腔インプラントに必要な診察と検査、治療手順を説明できる。
- ④ 口腔インプラントの埋入手術方法を説明できる。
- ⑤ 口腔インプラント上部構造の印象採得を説明できる。
- ⑥ 口腔インプラント上部構造の咬合採得を説明できる。
- ⑦ 口腔インプラント上部構造の製作手順と装着方法を説明できる。
- ⑧ 口腔インプラントのメンテナンスの意義と方法を説明できる。

#### D-5-5) 小手術

小手術を適切に実施するために必要な基本的知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 抜歯の適応症と禁忌症（相対的禁忌への対応及び小手術の適応症と禁忌を含む）及び基本手技を説明できる。
- ② 小手術の合併症（偶発症）を説明できる。
- ③ 小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。
- ④ 手指と術野の消毒法を説明できる。
- ⑤ 埋伏歯（智歯を含む）の抜去法を説明できる。
- ⑥ 周術期の管理の目的と意義を説明できる。

#### D-5-6) 不正咬合の治療

不正咬合に対する診断、治療の必要性とその意義を理解する。

学修目標：

- ① 矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。
- ② 正常咬合の概念と成立、保持条件を説明できる。
- ③ 不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。
- ④ 矯正歯科治療に用いる装置・器材の種類と名称、使用目的、使用方法を説明できる。
- ⑤ 矯正歯科治療によって起こる全身的・局所的生体反応を説明できる。
- ⑥ 矯正歯科治療によって生じうる合併症（偶発症）及び予防法を説明できる。

#### D-5-7) 小児の歯科治療

小児の歯科治療の特殊性を理解する。

学修目標：

- ① 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。
- ② 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査及び診断を説明できる。
- ③ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる。
- ④ 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査、診断及び治療法を説明できる。
- ⑤ 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる。
- ⑥ 小児の歯の外傷の診察、検査、診断、処置法及び予後を説明できる。
- ⑦ 小児の粘膜疾患の診察、検査、診断及び処置法を説明できる。
- ⑧ 静的（受動的）及び動的（能動的）咬合誘導の概念と歯列、咬合の正常発育を阻害する因子を説明できる。
- ⑨ 保隙処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保隙装置の設計と製作法を説明できる。
- ⑩ 小児の虐待の徴候と身体的所見を説明できる。

#### D-5-8) 高齢者の歯科治療

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

学修目標：

- ① 高齢者の生理的、精神心理的及び行動的特徴（認知症を含む）を説明できる。
- ② 高齢者に多く見られる疾患及び服用薬剤を説明できる。
- ③ 高齢者の口腔機能検査、口腔機能管理と口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。
- ④ 高齢者における口腔衛生管理の用具と処置を説明できる。
- ⑤ 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。
- ⑥ 要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。
- ⑦ 高齢者の嚥下障害の原因となる背景・疾患および摂食嚥下リハビリテーション（食形態の調整を含む）を説明できる。
- ⑧ 高齢者の栄養状態の評価と栄養指導を説明できる。
- ⑨ 高齢者の虐待の徴候と対応を説明できる。

#### D-5-9) 障害者の歯科治療

障害者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

学修目標：

- ① 障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。
- ② 障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。
- ③ 障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。
- ④ 障害者の口腔衛生管理を説明できる。
- ⑤ 障害者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。

#### D-5-10) 精神・心身医学的疾患の治療

心と体は密接に関連していることを理解し、精神・心身医学的疾患の基本的知識を身に付ける。

学修目標：

- ① 心身相関を説明できる。
- ② 口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。
- ③ 口腔、顎顔面領域に症状を現す心因性病態による疾患の症状、診断及び治療法を説明できる。
- ④ 心理テストの目的と意義を説明できる。
- ⑤ 舌痛症を説明できる。
- ⑥ 歯科治療恐怖症を説明できる。
- ⑦ 心身医学的治療を説明できる。

#### D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療

患者中心の歯科医療を実践するために、多職種連携の必要性と地域医療の中での歯科医師の役割を理解する。

##### D-6-1) 医師と連携するために必要な医学的知識

医科歯科連携を行うため、必要な医学的知識を身に付ける

学修目標：

- ① 歯科治療上問題となる代表的な全身疾患（※D領域文末に示す）、服用薬剤等を列挙できる。
- ② 入院患者に対する患者の状態に応じた療養上の管理を概説する。

##### D-6-2) 歯科専門職間の連携と多職種連携、チーム医療、地域医療

患者中心の医療を実践するために、他職種の専門性を尊重し、歯科専門職間および多職種での共同、連携の方法を理解する。

学修目標：

- ① 歯科衛生士と連携する口腔健康管理の方法を概説できる。
- ② 歯科技工士と連携する歯科技工の方法を概説できる。
- ③ 多職種連携に必要となる基本的な専門用語を説明できる。

- ④ 多職種チーム（栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）内での口腔健康管理について概説できる。
- ⑤ 歯科健診、地域住民に対する健康教育の方法を概説できる。

※代表的医科疾患・病態（D-6-1）①に示す代表的な疾患として）

呼吸器系：呼吸不全、閉塞性肺疾患（気管支喘息を含む）、拘束性肺疾患、誤嚥性肺炎

循環器系：心不全、心内膜炎、弁膜症、虚血性心疾患、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症

消化器系：消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変

血液・造血器・リンパ系：貧血、出血傾向、白血病

内分泌系：糖尿病、甲状腺疾患、骨粗鬆症

免疫・アレルギー：免疫不全、膠原病、アレルギー性疾患

神経系：脳血管疾患、Alzheimer 病、Parkinson 病、てんかん

皮膚系：皮膚ウイルス感染症（麻疹、手足口病を含む）

腎・尿路系：慢性腎臓病、急性腎障害

感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症

精神系：認知症、統合失調症、不安障害、うつ病

小児：小児けいれん性疾患、先天性疾患、発達障害

## E 臨床歯学（診察・診断と治療技能）

適切な歯科医療を提供するために、頭頸部領域の症候・病態から適切な診察・検査を選択して診断を行い、治療計画を立案したうえで安全・安心な治療を実践できる基本的臨床技能を身に付ける。

### E-1 診療の基本

信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、救急処置法を身に付けるとともに、医療安全対策に配慮した医療を実践し、処置時には適切な疼痛管理（除痛法）を実践する。

#### E-1-1) 医療安全・感染対策

歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染対策についての知識、技能及び態度を身に付ける。

学修目標：

医療安全対策（標準予防策(SP)、感染予防、医療機器の操作、放射線の誤曝等を含む）を実践できる。

- ② 手洗いと滅菌手袋の装着ができる。
- ③ 適切な個人用防護具(PPE)を選択して着用できる。
- ④ 清潔に配慮した操作ができる。
- ⑤ 医療廃棄物を適切に分別し廃棄できる。
- ⑥ 針刺し切創対策を適切にできる。
- ⑦ インシデント報告書（放射線の誤曝を含む）を作成できる。
- ⑧ 薬剤耐性(AMR)に配慮した適切な抗菌薬の選択ができる。

#### E-1-2) 救急処置

救急処置の基本を身に付ける。

学修目標：

- ① 意識状態を確認し、評価できる。
- ② 一次救命処置(BLS)を実演できる。

#### E-1-3) 麻酔・除痛法

歯科治療を実施するために必要な疼痛管理と局所麻酔法を身に付ける。

学修目標：

- ① 局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。

- ② 精神鎮静法の介助ができる。
- ③ 薬物療法による疼痛管理ができる。

## E-2 基本的診察・診断技能

臨床において患者から症状や異常を聴取し、適切な診察や検査を選択して診断できる技能を身に付ける。

### E-2-1) 医療面接（病歴聴取と医療コミュニケーション）

良好な医師-患者関係を構築するためにコミュニケーションの重要性を理解し、医療面接に必要な知識、技能及び態度を身に付ける。

#### E-2-1)-(1) 一般成人の医療面接

学修目標：

- ① 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。
- ② 医療面接における基本的なコミュニケーションができる。
- ③ 患者情報を収集、分析できる。
- ④ 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴、職業歴等）を聴取できる。
- ⑤ 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
- ⑥ 患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。
- ⑦ 患者のプライバシーに配慮できる。
- ⑧ 聴取した患者情報を指導歯科医に報告できる。

#### E-2-1)-(2) 小児やその他特別な配慮を要する患者の医療面接

学修目標：

- ① 小児の医療面接における基本的なコミュニケーションができる。
- ② 小児患者への一般的対応（言語的・非言語的コミュニケーション、代用語の使用）を実践できる。
- ③ 障害者及びその家族や介護者に対する医療面接を通して患者情報を聴取できる。

### E-2-2) 口腔、顎顔面領域の診察・検査

口腔、顔面領域の疾患を診断するために必要な診察と検査に関する知識、技能及び態度を身に付ける。

学修目標：

- ① 患者情報から必要な診察、検査を選択できる。
- ② 頭頸部の状態の診察（視診、触診等）ができる。

- ③ 口腔内および歯の診察・検査（視診、触診、打診、温度診、歯髄電気診、透照診、齶蝕リスク検査、レーザー蛍光強度測定）を実施できる。
- ④ 歯・歯列・咬合の診察を實踐できる。
- ⑤ 歯周組織検査（歯の動揺度検査、歯周ポケット検査、プロービング時の検査、根分岐部病変検査、プラーク検査）を実施できる
- ⑥ 口腔機能検査（下顎運動検査、顎関節、筋機能検査、咀嚼機能検査、唾液および唾液腺検査、嚥下機能検査、発音および構音検査、鼻咽腔閉鎖機能検査、感覚（味覚、体性感覚）の検査、舌圧検査）を実施できる。
- ⑦ 精密触覚機能検査を実施できる。

#### E-2-3) 全身の診察と検査による全身状態の把握

全身状態を把握するために必要な診察と検査法を身に付ける。

学修目標：

- ① 口腔と医科疾患との関連について説明できる。
- ② バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸、体温、経皮的動脈血酸素飽和度）を測定し、評価できる。
- ③ 患者の全身状態及び服用薬剤を聴取する。
- ④ 全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。
- ⑤ 小児の身体の発育状態（Kaup 指数、Rohrer 指数）、運動機能（歩行等）、生理的数値（体温、脈拍数、呼吸数、血圧）、皮膚・手指・爪を評価できる。
- ⑥ 病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解・説明できる。
- ⑦ 血液学検査（血球、凝固・線溶・血小板機能）、生化学検査、免疫血清学検査、生体機能検査、栄養学検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。

#### E-2-4) 医科歯科連携

医科歯科連携の必要性和歯科医師のかかわり方を理解し、診療情報提供書の作成法を身に付ける。

学修目標：

- ① 医科歯科連携に応じた診療情報提供書作成を実演できる。

#### E-2-5) 画像検査を用いた診断

放射線検査の必要性和人体に対する影響を患者に説明した上で検査を實踐し、画像を読影する能力を身に付ける。

学修目標：

- ① 診断並びに治療に必要な画像検査及び臨床検査を選択し、実施できる。
- ② 口内法エックス線検査およびパノラマエックス線検査の必要性を患者に説明し、その撮影ができる。
- ③ CT 及び MRI の必要性を患者に説明し、撮影の指示ができる。
- ④ 口腔内エックス線検査またはパノラマエックス線検査で得た画像を読影できる。

#### E-2-6) 病理組織検査を用いた診断

病理組織検査（組織診、細胞診等）を理解する能力を身に付ける。

学修目標：

- ① 病理組織検査（組織診、細胞診等）の依頼書と報告書の内容を解釈できる。

#### E-2-7) 基本的診断（臨床推論）

症候・病態から疾患を導き出す思考過程を身に付ける。

学修目標：

- ① 医療面接により患者の歯科疾患の症状等、及び内科疾患の既往や全身状態等に加え患者の社会的背景等を聴取できる。
- ② 聴取した疾患の症状から必要な身体診察（口腔・顎顔面及び全身）を選択、実施してその所見から症候・病態を明確にできる。
- ③ 症候・病態から想定すべき鑑別疾患名を想起できる。
- ④ 鑑別診断のための各種検査を選択、実施して、診断確率を高めることができる。

#### E-3 症候・病態からの臨床推論

口腔・顎顔面領域の主な症候から病態生理学的に発症原因を推論し、分類、鑑別診断できる基本的能力を身に付ける。

学修目標：

- ① 口腔及び顎顔面領域の痛みの発症原因を病態生理学的に推論し、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ② 口腔及び顎顔面領域の外傷による病態生理学的変化を踏まえて原疾患の損傷程度や範囲を推論し、治療を要する程度と範囲を診断できる。
- ③ 開口障害の発症原因を病態生理学的に推論し、炎症、腫瘍、顎関節疾患、全身疾患等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ④ 口腔乾燥の発症原因を病態生理学的に推論し、口腔疾患、全身疾患等に分類した上で、原因疾患を診断できる。

- ⑤ 摂食嚥下時の障害や痛みの発症原因を病態生理学的に推論し、口腔・食道疾患、脳・神経疾患、筋肉疾患等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑥ 味覚異常の発症原因を病態生理学的に推論し、口腔疾患、栄養不足、全身疾患等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑦ 口臭の発症原因を病態生理学的に推論し、口腔疾患、全身疾患、心理的要因等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑧ 発音障害（発声障害、構音障害）の発症原因を病態生理学的に推論し、形態障害、脳・神経疾患、口腔機能低下等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑨ 口腔異常感・咬合違和感の発症原因を病態生理学的に推論し、心理的要因かその他の要因かに分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑩ 歯や歯周組織を中心とした腫脹の発症原因を病態生理学的に推論し、炎症、腫瘍、嚢胞等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑪ 口腔及び顎顔面領域のリンパ節腫脹の発症原因を病態生理学的に推論し、炎症、アレルギー、自己免疫疾患、腫瘍等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑫ 口腔及び顎顔面領域の発疹の発症原因を病態生理学的に推論し、感染症、アレルギー・自己免疫疾患、腫瘍等に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑬ 歯の欠損・叢生・萌出不全による病態生理学的変化を踏まえて遺伝性、腫瘍、嚢胞、その他に分類した上で、原因疾患を診断できる。
- ⑭ 口腔及び顎顔面領域の神経麻痺の発症原因を病態生理学的に推論し、原因疾患を鑑別診断できる。
- ⑮ 口腔内出血の発症原因を病態生理学的に推論し、口腔疾患、全身疾患に分類した上で、原因疾患を診断できる。

#### 《鑑別すべき主な原因疾患》

- ①口腔及び顎顔面領域の痛みを症候とする疾患
  - ・侵害受容性（炎症性・外傷性）疼痛：歯髄炎、根尖性歯周炎、歯周疾患、骨髄炎、蜂窩織炎、舌炎、唾液腺炎、口内炎、象牙質知覚過敏、外傷性咬合、顎関節症
  - ・神経障害性疼痛：三叉神経痛、帯状疱疹による三叉神経障害性疼痛、帯状疱疹後三叉神経痛、外傷後三叉神経障害性疼痛、舌咽神経痛、舌咽神経障害性疼痛、脳卒中後痛
  - ・一次性疼痛・特発性疼痛（原因疾患不明）：持続性特発性歯痛・顔面痛、口腔内灼熱痛症候群、身体症状症
  - ・その他の疼痛（複合痛）：悪性腫瘍
- ②口腔及び顎顔面領域の外傷
  - ・軟組織の損傷、血腫、歯の脱臼、歯の破折、歯槽骨骨折、顎骨骨折、頬骨骨折
- ③開口障害を症候とする疾患
  - ・炎症・感染症：骨髄炎、蜂窩織炎、顎関節炎、骨折（顎骨、頬骨弓）
  - ・腫瘍：良性腫瘍（滑膜軟骨腫症、骨軟骨腫等）、悪性腫瘍
  - ・顎関節疾患：顎関節症、顎関節強直症、顎関節脱臼
  - ・全身疾患：痛風、リウマチ
- ④口腔乾燥を症候とする疾患
  - ・口腔疾患：舌炎、唾液腺機能低下
  - ・全身疾患：Sjögren症候群、糖尿病、甲状腺機能亢進症、尿崩症
  - ・全身的要因：加齢、ストレス、薬剤の副作用
- ⑤摂食・嚥下の障害や痛みを症候とする疾患
  - ・口腔、食道疾患：口腔乾燥症、口腔腫瘍、食道腫瘍、咽頭炎等蜂窩織炎
  - ・脳・神経疾患：脳卒中、Parkinson病、舌咽神経痛
  - ・筋肉疾患：重症筋無力症、筋ジストロフィー
- ⑥味覚異常を症候とする疾患
  - ・口腔疾患：舌炎、舌の萎縮、口腔乾燥症、口腔カンジダ症、口内炎

- ・栄養不足：亜鉛不足
- ・全身疾患：Sjogren 症候群、急性上気道炎、副鼻腔炎、花粉症、腫瘍
- ⑦口臭を症候とする疾患
  - ・生理的なもの：ストレスによる口臭・食品による口臭・口腔乾燥による口臭
  - ・口腔疾患：歯周病、齶蝕、舌苔
  - ・全身疾患：呼吸器系疾患、消化器系疾患、糖尿病、肝臓疾患、耳鼻科的疾患
  - ・心理的なもの：心理的口臭
- ⑧発音障害（発声、構音障害）を症候とする疾患
  - ・形態障害：口蓋裂、舌小帯短縮症（強直症）、口腔疾患の手術後
  - ・脳・神経疾患：脳卒中、Parkinson 病
  - ・口腔機能低下
- ⑨口腔異常感・咬合違和感を症候とする疾患
  - ・原因不明または心理的要因：舌痛症、口腔乾燥症、咬合異常感症、精神障害
- ⑩歯や歯周組織を中心とした腫脹を症候とする疾患
  - ・炎症・感染症：歯周疾患、骨髓炎、蜂窩織炎、舌炎、口唇炎、唾石症、唾液腺炎、ウイルス・細菌・真菌感染症
  - ・腫瘍：良性腫瘍、悪性腫瘍
  - ・嚢胞：顎骨嚢胞、軟組織嚢胞
  - ・その他：皮下気腫
- ⑪口腔及び顎顔面領域のリンパ節腫脹を症候とする疾患
  - ・炎症・感染症：歯周疾患、骨髓炎、蜂窩織炎、結核、細菌・ウイルス性感染症
  - ・アレルギー、自己免疫疾患
  - ・腫瘍：悪性リンパ腫、その他の悪性腫瘍全般
- ⑫口腔粘膜異常を症候とする疾患
  - ・炎症性疾患：アフタ性口内炎、Behçet's 病、扁平苔癬、Stevens-Johnson 症候群
  - ・感染症：ウイルス性発疹症、単純ヘルペス性口内炎、口腔カンジダ症
  - ・アレルギー・自己免疫疾患：天疱瘡
  - ・腫瘍性病変
  - ・色素性病変：Addison 病、Peutz-Jeghers 症候群
- ⑬歯の欠損・叢生・萌出不全を症候とする疾患
  - ・遺伝性疾患、口唇・口蓋裂奇形
  - ・腫瘍：良性腫瘍（歯牙腫等）、悪性腫瘍
  - ・嚢胞：顎骨嚢胞、軟組織嚢胞
  - ・その他：歯と顎骨のディスクレパンシー、口腔悪習癖
- ⑭口腔及び顎顔面領域の神経麻痺を症候とする疾患
  - ・脳血管障害、脳炎、腫瘍：中枢性顔面神経麻痺
  - ・ウイルス疾患、アレルギー、術後合併症、外傷、腫瘍、中耳炎
  - ・原因不明：末梢性顔面神経麻痺
- ⑮口腔内出血を症候とする疾患
  - ・口腔疾患：歯周疾患、歯の萌出、粘膜炎、悪性腫瘍、外傷
  - ・全身疾患：白血病、血友病

#### E-4 診療記録の整理と治療計画立案

患者から得られた医療情報の取扱いを理解し、得られた情報を基に患者中心の治療計画の立案法を身に付ける。

#### E-4-1) 診療記録

患者から得られた医療情報を標準的な形式に従って記録し、処方箋、技工指示書を適切に作成できる。

学修目標：

- ① 問題志向型診療記録(POMR)で診療録作成を実演できる。
- ② 処方箋作成を実演できる。
- ③ 技工指示書作成を実演できる。

#### E-4-2) 診断と治療計画

一口腔単位の歯科治療を行うために患者情報を収集・分析、診断して、治療計画を立案するための知識、技能及び態度を身に付ける。

学修目標：

- ① 患者の健康上の問題を収集、整理して治療方針と治療の優先順位を決定できる。
- ② 疾患に対する治療方針に加えて患者の背景や希望を考慮して総合治療計画を立案できる。

#### E-4-3) 患者中心の医療とインフォームド・コンセント

臨床実習を通して患者中心の医療を実践し、歯科医師として必要な医の倫理、患者の権利についての知識、態度を身に付ける。

学修目標：

- ① 診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。
- ② インフォームド・コンセントおよびインフォームド・アセントを得ることができる。
- ③ 患者の訴え、また指導歯科医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。
- ④ 疫学と根拠に基づいた医療(EBM)と Narrative-Based Medicine (NBM) に基づいた患者中心の医療を実践できる。

#### E-5 基本的臨床技能 (各論)

安全・安心な歯科医療を提供するために、基本的臨床技能を身に付ける。

##### E-5-1) 共通事項

安全に歯科診療を実施するための環境整備を実践する。

学修目標：

- ① 治療内容に応じて必要な器材の準備、片付けができる。
- ② 患者および術者の適切な診療ポジションをとることができる。

#### E-5-2) 歯科保健指導

歯科疾患の予防と口腔衛生管理を実践する。

学修目標：

- ① 口腔の健康状態やリスクの有無を評価し、対象者に説明できる。
- ② 口腔衛生指導を実施できる。
- ③ PMTC を実施できる。
- ④ 食育指導を実施できる。
- ⑤ 生活習慣の指導ができる。
- ⑥ 禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔癌等の予防を実施できる。
- ⑦ ライフステージに応じた栄養について指導できる。

#### E-5-3) 歯と歯周組織の疾患の治療

歯と歯周組織に生じる疾患の治療を実践する。

##### E-5-3)-(1) 齲蝕、その他の歯の硬組織疾患の診断と治療

学修目標：

- ① コンポジットレジン修復（単純窩洞）ができる。
- ② コンポジットレジン修復（複雑窩洞）ができる。
- ③ グラスアイオノマーセメント修復ができる。
- ④ メタルインレー修復ができる。
- ⑤ コンポジットレジンインレー修復ができる。
- ⑥ 補修修復ができる。
- ⑦ 象牙質知覚過敏症に対する処置ができる。
- ⑧ 修復後の術後管理ができる。

##### E-5-3)-(2) 歯髄及び根尖性歯周疾患の診断と治療

学修目標：

- ① 感染根管治療（単根歯）ができる。
- ② 感染根管治療（複根歯）ができる。
- ③ 直接覆髄法と間接覆髄法ができる。
- ④ 暫間的間接覆髄法ができる。
- ⑤ 歯髄鎮痛消炎療法ができる。
- ⑥ 抜髄（単根歯）ができる。
- ⑦ 歯髄及び根尖性歯周疾患治療後の経過を観察できる。

##### E-5-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療

学修目標：

- ① 歯周基本治療（プラークコントロール指導）ができる。

- ② 歯周基本治療（スケーリング）ができる。
- ③ 歯周基本治療（スケーリング・ルートプレーニング）ができる。
- ④ 歯周基本治療（咬合調整）ができる。
- ⑤ 歯周基本治療（簡単な暫間固定）ができる。
- ⑥ 歯周治療後のメンテナンスができる

#### E-5-4) 歯質と歯の欠損の治療

歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部欠損に対する補綴治療を実践する。

##### E-5-4)-(1) 固定性補綴装置（クラウンブリッジ）による治療

学修目標：

- ① 固定性補綴治療に必要な情報を収集し、それに基づく治療計画の立案と装置の設計が実施できる。
- ② 支台築造ができる。
- ③ 支台歯形成ができる。
- ④ 固定性補綴装置の精密印象採得ができる。
- ⑤ 固定性補綴装置の咬合採得ができる。
- ⑥ 固定性補綴装置の色調選択（シェードテイキング）ができる。
- ⑦ プロビジョナルレストレーションができる。
- ⑧ 固定性補綴装置装着と患者指導ができる。
- ⑨ 固定性補綴装置の術後管理ができる。

##### E-5-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）による治療

学修目標：

- ① 可撤性補綴治療に必要な情報を収集し、治療計画の立案と装置の設計（サベイングを含む）が実施できる。
- ② 可撤性義歯による補綴治療の前処置ができる。
- ③ 可撤性義歯の概形印象採得と研究用模型製作ができる。
- ④ 可撤性義歯の精密印象採得と作業用模型製作ができる。
- ⑤ 可撤性義歯の咬合採得と人工歯選択ができる。
- ⑥ 作業用模型の平均値咬合器への装着ができる。
- ⑦ 可撤性義歯の装着と患者指導ができる。
- ⑧ 可撤性義歯装着後の経過観察ができる。
- ⑨ 可撤性義歯の修理ができる。

#### E-5-5) 小手術

小手術の基本的技能を身に付ける。

学修目標：

- ① 永久歯の単純抜歯を実施できる。
- ② 小膿瘍の切開ができる。

- ③ 基本的な縫合を実施できる。
- ④ 基本的な抜糸を実施できる。

#### E-5-6) 不正咬合の治療

不正咬合を診断するために必要な診察と検査に関する技能を身に付ける。

学修目標：

- ① 模型及び頭部エックス線規格写真等より、分析、診断、治療計画を立案できる。
- ② 矯正歯科治療における口腔衛生指導を実施できる。

#### E-5-7) 小児の歯科治療

小児の口腔疾患に対する予防と治療法を実践する。

学修目標：

- ① 小児及び保護者へのプラークコントロールを行うために、適切な口腔衛生指導を実施できる。
- ② 小児及び保護者へのブラッシング指導を実施できる。
- ③ 小児に対するPMTCを実施できる。
- ④ 年齢別の食事指導・間食指導の内容を評価できる。
- ⑤ フッ化物歯面塗布を実施できる。
- ⑥ 予防填塞を実施できる。
- ⑦ 小児患者への対応として行動変容法及び抑制法を実践できる。

#### E-5-8) 高齢者の歯科治療

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴に留意して診療を実践できる。

学修目標：

- ① 移乗の介助ができる。
- ② 高齢者の口腔衛生管理の用具の基本的な取り扱いを実施できる。
- ③ 高齢者に対する口腔衛生管理ができる。
- ④ 摂食嚥下障害のスクリーニング検査を実施できる。
- ⑤ 高齢者及びその介護者に対する基本的な対応ができる。
- ⑥ 認知症患者の歯科治療を経験する。

#### E-5-9) 障害者の歯科治療

障害者の身体的、精神的及び心理的特徴に留意して診療を実践できる。

学修目標：

- ① 障害者の口腔衛生管理の用具の基本的な取り扱いを実施できる。
- ② 障害者及びその介護者に対する基本的な対応ができる。

#### E-6 多職種連携、チーム医療、地域医療

医療チームの一員として地域医療に参画する。

E-6-1) 歯科専門職間の連携と多職種連携、チーム医療  
チーム医療に参画する。

学修目標：

- ① 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士と他職種（医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師、言語聴覚士、その他の関連職種並びに介護職）によるチーム医療を経験する。
- ② 病診連携、病病連携を経験する。

E-6-2) 地域医療

歯科診療所内だけでなく、地域における保健、医療、介護に参画する。

学修目標：

- ① 訪問診療に必要な器材の操作を実施できる。
- ② 訪問診療を経験する。
- ③ 地域包括ケアシステムを経験する。